

## 令和元年度事業報告書

### A、実施事業(継続事業 1 定款第4条 1号から第5号)

#### 1、神道の思想・文化に関する研究及び情報提供

##### (1) 学術研究書「神道文化叢書」の企画・編集

神道の思想や文化に関する高度な学術研究について公表の機会を提供するため、「神道文化叢書」を刊行している。本年度は第45輯『「天皇」永続の研究』東郷茂彦著を令和2年6月30日に刊行。  
(630部・関係者、会員等に配布)

##### (2) 機関誌「神道文化」の発行

神道文化の普及、神道精神の昂揚を目的として、機関誌を発行している。随筆、対談(座談会、学術小論文等)を掲載。本年度は、座談会の開催を下記の通り開催したが、次年度の33号に掲載することとし、設立70周年事業「明治維新150年記念懸賞論文」入選入賞者4名の論文を掲載している。  
令和2年6月30日発行。  
(1000部・関係者、会員等に配布)

##### (3) 座談会の開催

- ・日 時 令和元年8月29日(木) 午後1時30分～午後4時30分まで
- ・場 所 東京大神宮マツヤサロン
- ・出席者 木下秀明氏(元日本大学文理学部体育学科教授)  
中村哲夫氏(皇學館大学教育学部教育学科教授)  
山田佳弘氏(國學院大學人間開発学部健康体育学科教授)  
中嶋哲也氏(茨城大学教育学部学校教育教員養成課程准教授)  
(司会)  
藤田大誠氏(國學院大學人間開発学部健康体育学科教授)
- ・テーマ 「スポーツ文化と神道文化」

##### (4) 講演

毎年1回「神道文化」をテーマにした公開講演会や大学教授らによるミニシンポジウムを開催している。本年度は、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、当初予定していた例年のような会場を設けての講演会開催は中止とし、本会のWebサイトに期間を設け音声付スライドおよびレジュメを掲載、視聴者の利便に供した。また、リモート出演にて下記三氏による座談会を開催し、配信を行った。

対象：一般公衆(ホームページ、ダイレクトメール等によりWeb開催を告知)

《Web.講演会》

- ・日 時 令和2年6月13日(土) 午後1時より配信(2ヶ月間)
- ・テーマ 「日本書紀と神道文化」

- ・講演Ⅰ 「日本書紀と神社・謡曲」  
遠藤慶太氏(皇學館大学文学部教授)
- ・講演Ⅱ 「日本書紀を読むということ」  
渡邊 卓氏(國學院大學研究開発推進機構准教授)
- ・リモート座談会 令和2年6月20日午後1時より配信  
出席者 遠藤慶太氏、渡邊 卓氏  
藤本頼生氏(國學院大學准教授／司会・進行)

## 2、神道文化功労者表彰

毎年、当会の「神道文化表彰規程」に基づき、神道文化の昂揚、普及、研究に功績のあった個人もしくは団体を選定し、表彰を行っている。

本年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、毎年4月に行われている表彰選考委員会の開催を見送り、「神道文化会表彰規程施行細則」の第二条に基づき会長(代表理事)による書面審査をもって表彰者を決定した。

表彰対象は以下の通りである。

- 1 多年神道文化高揚に精励し、その功績拔群なる個人もしくは団体
- 2 神道文化に関する学術研究において、その功績の顕著なるもの
- 3 神道ならびに神社に関する広報・教化活動において、その功績顕著なるもの
- 4 神道関係団体において、その活動が優秀なるもの
- 5 神道文化高揚のため功労あるもの

本年度支給総額：30万円。書面による審査(令和2年6月10日)において決定。

(表彰状および記念品料を郵送にて支給)

《令和元年度被表彰者名》

(1)霧島神宮誌編纂委員会殿 (鹿児島県)

令和2年の『日本書紀』編纂千三百年を記念し、『霧島神宮誌』が刊行された。同誌は、平成28年3月國學院大學教授阪本是丸氏を監修に國學院大學研究開発推進センターのマネジメントに基づき、霧島神宮誌編纂委員会(委員は研究開発推進センター専任教員他大学教員等)によって推進され、令和元年9月に刊行された。執筆は、第一部を編集委員、第二部を主として事務局(霧島神宮職員)が担当し、研究者と同神宮職員との共同研究として実施された。霧島神宮は、高千穂峯(霧島山)の噴火による影響で資料が紛失した経緯もあり、本格的な神社誌の編纂は行われていなかったが、今回の本格的な資料調査により霧島信仰の歴史的経緯、祭祀、社殿、文化財、宝物、境内地、崇敬団体の現状などが一書に纏められ刊行された。内容は、霧島神宮職員が各地の霧島信仰を実地に調査したものなど貴重なものが含まれ、今後の霧島信仰の研究に大きく寄与している。

記念品料10万円支給

## (2) 徳島県神社庁教化委員会 殿

(徳島県)

この度、徳島県神社庁は『改定徳島県神社誌』を刊行。同神社庁では、昭和 56 年 1 月 1 日『徳島県神社誌』(初版)が発行されているが、当時からは神社の態様も変わり、さらに今後も大きく流動することが予想され、神社の現状を記しておく必要性から改訂版を出す運びとなった。本誌は、法人化されている県下千二百九十六社の全神社を網羅し、初版の各神社の「由緒」欄を「由緒沿革」とし、より詳細に調査ののち記述した。また由緒不詳のみとなっていた神社もできるだけ説明を加え、ページ数も増加している。祭神名にルビ、祭礼の種類と斎行日を掲載することによって神職のみならず一般の方々の神社参拝や神社理解に資することも考慮した。県下全神職協力のもと、徳島県神社庁教化委員会の編纂委員が 3 年 8 か月をかけて発刊した本誌は、本県神社や神社神道への理解を深める教材ともなり今後の教化活動にも役立つと期待される。

記念品料 10 万円支給

## (3) 住吉かかしプロジェクト殿

(大阪府)

住吉大社「住吉かかしプロジェクト」は、住吉大社境内にある御田および御田植神事、御田講を基盤に御田植神事の苗床を住吉区、住之江区周辺の希望校・園(高校・小学校・幼稚園、こども会等)に頒賜し、稲作体験と案山子の作成、アイガモ農法(放鳥体験)への参加を通じて戦後都市化のなかで急激に都市部を中心に失われた稲作文化の継承と農耕に基づく日本文化への理解を深める「食育プログラム」である。平成 25 年当初は小学校 5 年生を対象としていたが参加要望も増え新聞などに取り上げられることにより活動展開は広がりを見せた。苗床などを西アフリカのブルキナファソ国へ毎年贈られており、同国の女性就労、学習教材の提供にも寄与している。本プロジェクトを通じた交流により国際的な文化交流活動にも発展するなど、他の稲作体験作業とは一線を画すものと言え、青少年に対する神道教化・広報活動のみならず神道文化の発信に寄与している。

記念品料 10 万円支給

## 3、助成金支給事業

### (ア) 神道芸能普及費の支給

当会の「神道芸能普及費支給規程」に基づき、神道芸能の普及・昂揚のため活動している個人及び団体に対して、援助金を支給し、その活動を支援している。支援対象は以下の通りである。

- 1 歴史的民俗的に神道及び神社とかかわりある音楽ならびに舞踊(その他これに類するものを含む・以下同じ)
- 2 神道行事に関わる音楽ならびに舞踊
- 3 神社祭祀に関わる音楽ならびに舞踊
- 4 神道文化昂揚普及に関わる音楽ならびに舞踊

支給額：30 万円。書面による審査(令和 2 年 6 月 10 日)において決定。

(目録及び普及費を郵送にて支給)

《本年度支給対象者》

(1) 御崎神社奉賛会 殿

(鹿児島県)

鹿児島県肝属郡南大隅町の佐多地区では、毎年2月に御崎祭りが行われる、御崎神社の春祭りである。佐多岬の妹神が約20キロ離れた郡集落の妹神に年始参りをするという物語にそって、御崎神社から出発した御神幸行列が、途中の七浦といわれる各集落をめぐりながら近津宮神社を訪れる。佐多地区の古い伝統行事でもあり、平成17年に県指定無形民俗文化財に指定された。宮司不在の神社にも関わらず、奉賛会が立ち上げられ、毎年春の御崎祭りは執り行われる。地域の少子高齢化に伴い日程が前後することもあるが、氏子によると連綿と続いている神事である。

普及費10万円支給

(2) 北寺稻荷神楽保存会 殿

(岩手県)

北寺稻荷神楽は花巻市石鳥谷町北寺林地域に鎮座する、北寺稻荷神社に伝わる岳神楽(早池峰岳神楽)の流れを汲む種森神楽(1828年)の系統として(1845年)に神楽を奉納したのが起源と言われている。今まで幾度かの中断を経てきたが、平成7年から保存会が発足し地域全体で小学校三年生になったら、全員が神楽を習い始めることになり、地域内外の諸行事等に参加し、神楽への関心と高揚を図り、伝承保存活動及び後継者を求め地域一体となって取り組んでいる。

普及費10万円支給

(3) 上根子神楽保存会 殿

(岩手県)

当神楽は、円万寺神楽(花巻市膝立鎮座、八坂神社)を本家とする円万寺系神楽である。山伏神楽は、山伏が奉仕する権現舞によって、村人のお祓いや農作物の方策を祈る、祈祷神楽である。当神楽には明治3年の神楽本が残されているので、少なくともそれ以前、江戸時代後期ごろには、本家の円万寺神楽より伝承されたと考えられる。北東北の山伏神楽として有名な特徴を色濃く伝えている。平成15年3月、花巻市無形文化財に指定された。普段は、熊野神社の祭事に神楽を奉納するほか、2月には、氏子の邸内神祠等を権現舞で周る、春祈祷を奉仕している。現在、当神楽保存会の人数20名(小学生を含む)。毎週一回社務所で練習会を開催。

普及費10万円支給

(イ) その他の支給事業

文部科学省平成28年度「私立大学研究ブランディング事業」に採択された國學院大学の事業「古事記学」の一環として展開される「古事記アートコンテスト」の趣旨に賛同

し、本事業に共催として参画。第3回の表彰受賞者への賞金として助成金を支給。  
なお、本会機関誌「神道文化」にその活動報告及び入選作品が掲載されている。

助成金支給額　：　23万円

#### **B、その他の事業(出版等)**

本会は、児童向け教化冊子「杜のシリーズ」8冊を神道青年全国協議会と共同で企画・発行しているが、平成24年度より、良書の普及を目指し、神道文化叢書第1輯の『神道百言』、同第6輯『皇室の御敬神』、同第7輯『続神道百言』を復刻、出版し好評を得ている。本年度は、増刷なし。

以上